



# もりおかYMCA ニュース



## YMCAキャンプ で育まれるもの③

### こころを受け止める

神戸YMCA 舩永 知子

ある幼児キャンプでのことです。キャンプ場について昼食の直後、おなかが痛いと言った年長の男の子がリーダーと一緒に私の所に来ました。「おなかが痛いの？どうしたのかな」と話かけると、「お母さんの所へ帰る」と泣き出しました。普段あまりリーダーに甘えたりかかわろうとしなかった子でした。泣きやんでも皆の所へ行くのは嫌だと言います。「どうしたいの？」と聞くと「もう少しここにいたい」とはっきり言いました。ホームシックはグループのカウンセラーに任せることがほとんどですが、普段は自分の感じていることをあまり言わない彼が勇気を出して言った気持ちを受け止めたいと思いました。「わかった。じゃあ、みんながお部屋に入るときにグループにもどらうね」そう言うと納得し、2時間ほど私と一緒に過ごした後、約束どおり戻っていききました。

それからはグループの皆と2泊3日を過ごすことができました。解散の時、お母さんに報告すると、彼がはっきり自分の気持ちを言いえたことに驚いていらっしゃいました。

幼児キャンプは保護者もキャンパーも、楽しみより不安の方が多いかも知れません。私たちは、子供が感じたことをいろいろなかたちで表現できるよう援助するとともに、そうした子供たちの表現を見逃さず受け止め、必要な言葉をかけてかかわることを大切にしていきたいと思えます。そして仲間や周りの人の自己表現を受け止められるような人になってほしいと願っています。



盛岡YMCA  
わんぱくキャンプ99



盛岡YMCA  
中高生ワークキャンプ99

### 地の塩

動物学者のローレンツ。心理学の教科書には必ずと言っていいほど名を連ねる有名な学者だ。彼をこれだけ有名にしたのは刻印づけ(imprinting)の実験である。

ガンやカモなど大型鳥類の卵を人工的に孵化し、孵化直後に仮親(たとえば、他の鳥類・ネコ・ローレンツ自身)を提示すると、それらのヒナは最初に会った仮親を親として追尾することを発見したのである。この発見を通して発達の初期段階における経験や学習の重要性が強調されるようになった。

さて、刻印づけの大発見の影に隠れて目立たないが、このローレンツさんは次のような発見もしていた。「卵からかえるという危険な作業をたった今終えたばかりの一隻のガンのヒナが、ぬれた塊のままぐったりと首をのぼしている。生まれたてのこのヒナから引き出せる反応は一つしかない。ヒナのうえにかがみこんで、ガンの声域で二言、三言、音をむけて呼んでやると、ヒナはぐらぐらとすわらない頭を持ち上げ、首すじをのぼしてあいさつをよこす。何が出来るよりも前に、小さなガンは、自分をとりまく仲間にもむけてまず、あいさつを送るのである。」



なにもできない生まれたばかりの小さなガンの一番最初の大仕事はあいさつだったのだ。ガンでさえそうなのだから、人と人の間で生きていかなければならぬ人間にとってあいさつはどれほど大切なことだろう。

もうすぐ、キャンプがはじまる。子供たち、特に高学年になるとあいさつが苦手なようだ。テントから出てきた子供に「おはよう」と声をかけるとボソッと「おはよ…」ときには完全に無視されたりすることもある。それでも、リーダー、スタッフ一同めげずにあいさつを繰り返していると、3日目の朝からは向こうから笑顔で声をかけてくれたりする。

キャンプは生活である。普段、家族と一緒に生活から他者と文字通り寝食をともすることから様々な気づきが本人の中で起こってくる。別にわれわれが声をかけつづけたから子供が「おはよう」と言うようになるわけではない。本来、子供自身が生得的に持っているあいさつしたいという人間、いや生物の本質的なものにキャンプの生活を通して子供たち自身が自分の力で気づいていくのだと思う。

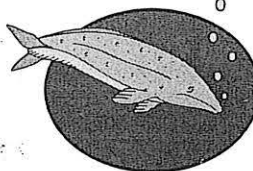
(濱)

## 各地のYMCA③(ドイツ)



### EXPOに展示館を出展 (ドイツYMCA)

2000年6月～10月、ドイツのハノーバー市で開催されるEXPO(万国博覧会)で、ドイツYMCAは、展示館「希望の館(The Pavilion of Hope)」を出展しています。出展するパビリオンは、奥行きが70メートル、高さ30メートルのガラス製のくじら形をしており、訪れた人々はくじらの口から中にはいることができます。パビリオンの中では、映画の上映や、世界各地で行われているストリートチルドレン支援や麻薬撲滅のための活



各地から募ったユースボランティアに託して運営しています。



動紹介など、盛りだくさんの内容を体験できます。また、ドイツYMCAは、このパビリオンを日本を含む世界